

彦根市行政評価委員会 会議録要旨

第 6 回 彦根市行政評価委員会		
日 時	平成 26 年 2 月 13 日（木） 13 時 30 分～15 時 00 分	
場 所	彦根市役所 3 階 32 会議室	
出席者	委 員	別紙のとおり
	市職員	企画振興部長、企画課職員（事務局）
欠 席 委 員	嶋津委員	

[開会]

[委員会の成立について]

委員 8 人中 7 人が出席。過半数の出席があったため、彦根市行政評価委員会設置要綱第 6 条第 3 項の規定により会議は成立。

[資料の説明]

事務局より本日の資料の説明

[前回委員会の振り返り]

[124 上水道の充実]

○委員長

それでは、前回、第 5 回委員会の施策の評価につきまして、事務局より示されました委員会としての総括評価案が記載されました評価表の資料が提出されておりますので、それに基づきまして確認を行いたいと思います。

まず、124 上水道の充実ですが、この評価点数について変更等がありましたらお願いします。変更ございませんか。

ないようですので、これを委員会の評価といたします。

続いて、総括評価に移らせていただきます。事務局より案が示されていますが、いかが

でしょうか。

ないようですので、これを委員会の総括評価といたします。

[125 下水道の整備]

○委員長

では、続きまして、125 下水道の整備につきまして評価点数の変更等がありましたらよろしくをお願いします。変更ありませんか。

では、ないようですので、これを委員会の評価といたします。

続いて、総括評価につきましてご意見等ありますか。

意見等ありませんので、それでは、これを委員会の総括評価といたします。

[131 道路の整備]

では続いて、131 道路の整備につきまして、評価点数に変更等ありませんか。

ないようですので、これを委員会の評価とします。

続いて、総括評価ですが、これにつきまして自由に発言をお願いいたします。これよろしいでしょうか。

ないようですので、それでは、これを委員会の総括評価といたします。

[132 公共交通ネットワークの整備]

では最後ですが、132 公共交通ネットワークの整備について、評価点に変更等がありましたらお願いします。変更ございませんか。

それでは、これを委員会の評価といたします。

続いて、総括評価ですが、意見等ありますか。よろしいでしょうか。

それでは、特に意見等ございませんので、これを委員会の総括評価といたします。

[今年度の総括]

[① 会議の進め方について]

議題(1)は以上です。それでは、議題(2)に入らせていただきます。

議題に沿い、自由に意見をお出しいただきたいと思います。まず、①ですが、会議の進

め方についてです。

今年度の委員会につきましては、まず、事前質問を行い、事務局より回答をいただいた後に、事前評価をし、委員会当日の質疑等によって評価を修正いただき、総括評価を含めて次の委員会で 30 分程度で振り返りを行って確定してまいりました。この流れにつきまして、意見等ございましたらご自由にお問い合わせいたします。

最初のころは議論が出ていたのですが、最後になってくるとほとんど議論が少なくなりました。その点も踏まえて何か反省点とか、今後につながるようなご意見などがありましたらお願いいたします。

ここでは、決定は次年度の委員会でということで、本日は意見のみということでよろしいですか。

○事務局

例年、事務局で当該年度の方針などを決めさせていただくのは、本日のような委員会の総括を踏まえてさせていただいておりますし、実際に今年度変更したところ、例えば様式を 1 枚にまとめたとか、委員会開始前に 30 分の時間を取り、前回委員会の振り返りをしたということも去年の総括での意見を踏まえて、取り入れさせていただいたもので、思っていることを言っていただければ、可能な範囲で対応させていただきます。

○委員長

本日は決定ではなく、提案させていただいて、それを参考に事務局で来年度の方針を決めていただくということになりますので、自由に思っていることを発言いただければいいと思います。

30 分程度の振り返りはいかがでしょうか。先ほども言いましたが、最初は色々議論していただいていたのですが、後半はずっと流れてしまったという感じがするのですが、そのあたりも含めましてご意見をいただければありがたいと思います。

○委員

僕自身も数年間委員をやらせていただいているので、その中の自分なりの総括というか、行政評価委員会そのものがどういう意義を持っているのかなということを考えつつ思っているのですが、議論の進め方自体は恐らく一つの流れの中で、それぞれの施策をチェックしてということで、でき上がっていると思うのですが、正直僕も含めてですけれども、委員の側、こちら側のマンネリ化が進んでいると僕は個人的に思っているもので、この形でいくのであれば、委員が変わっていくほうが望ましいと思います。そうしないと先ほどの熱

がだんだんなくなってきたというのは、結局、我々のエネルギーの問題だったという気がする。この形ですっといくのであれば、委員がもう少し連動して変っていくことが必要だと思いますし、逆に、何度も歴任しているこの委員のリソースをもし、利用してよりよいものにと考えていただくのであれば、やはり議論の仕方はもう少し変えるというか、少しタイミング的には見直したほうがいいのかなという気がします。それは、一つは、何か我々がこちら側でどんと構えて、来ていただいた方が一生懸命ミスなく原稿の中身を説明していただいて、善処しますという対応をしていただいてということが、どうも我々自身のエネルギーがそがれている一つの原因でもあるのかなと。それは我々も含めての原因だと思うので、そのあたり本当に我々がここで議論をしたり、もう少しこうしたほうがいいのではないかということが、本当に彦根市役所内において有益な議論であるというスタンスの中でするのであれば、我々の感覚的には彦根市役所の皆さんが一生懸命やっているという前提の中でやらせていただいていると思っているので、もう少しお互いに同じ方向を向いてというか、何かしらいいアイデアになったとか、持ち帰っていただけるような形に進めていただけると、僕個人としては、もし来年となったときでも、もう少し頑張れるというのがありますが、この形が、市の中で必要な位置付けだと思いますし、こういう形も別に悪いことではないと思いますが、委員を変えながら新しい人の声を聞きながらというのが望ましいやり方だという気がする。僕が関わってきた率直な感想としては、一生懸命やってきていただいている方々の、逆にその中身がよくわかっているのでできる議論というのは進むはずなのに、そういう意味でいうと毎年やっていることが、我々が蓄積しているものが生かされない形で毎年同じ形でやってしまっているような気はしなくはないので、せつかく何年間通じてやっていることであれば、やはり一つ具体的な例で言うと、昨年の評価に対して、改善を求める点というのはもう少し明らかにして、来年それをもう一回やはり我々がチェックできるような仕組みづくりというのもこれは一つ案ですけども、こういう形で継続性というものを重視するのであれば、議論が一步進む形にしていただけるといいのかな。一昨年も去年も今年も同じところを指摘し、それが難しいんですと同じ理由で言われ、そうだったなといって終わっていつているところが結局、最後の議論がなくなってしまった原因になっているという気がしていて、僕個人の反省も含めてですけども、感じていました。以上です。

○委員長

貴重なご意見をいただきましたが、これは次年度に今年度で審議した結果からこうしま

したと、この委員会の評価を受けてやりましたというような報告とか、ペーパーでも結構ですから何かそういう仕組みがあって、それを見て我々が評価ではないですけど、意見なりを言う機会が与えられるということになれば、もう少し議論が深まるのではないかなということだろうとは思いますが。

○事務局

ペーパーレベルであれば、3年ぐらい前には、一度したことがあると思います。昨年度の指摘に対する改善の調書というものをつくって、各委員さんに配布していたことはありましたので、そういったものは可能だと思います。それ以上の仕掛けについても、例えば市の職員を入れて議論をするなど、何らかの仕掛けは可能かだと思います。

○委員

そこへ行き着くには、我々の議論の整理の仕方も、総括評価の表現も含めてですけども、きちんと市に対して、こういうところでの改善なり修正ができないかと求めたいということと、一定のこの部分について評価をしていると。あるいは逆に、ここの部分は評価できないというような、もう少しこちら側のメッセージとしても、全体を通して最後のところに一覧が出ていて感じるのは、せっかくこれだけ色々な評価をした中で出てきたときに、この中で見たら単純に低いというのが2つ出ているわけですね。となると、やはりこれに関してもう少し具体的になぜ低いのかということについて、明確にするとか、我々の評価の表現そのものの見直しから入らないと、なかなかそれを受けて、各担当部署にやってくれと言っても、この文書だけを読んで、何を改善すればいいのかもわからないというようなところもあると思うので、僕としては、総括評価そのものの表現方法を、次回にこういう改善ができるポイントがあるんじゃないかということまで具体的に示していかないとできないかなと思いますし、それができればもう一回、市から返していただく価値も出てきて、やりとりをしてる感はもう少しあるのかなという気はします。

○委員長

ただ少し問題なのは、実際の評価ですけども、我々は事務事業である程度評価したところもあって、そうすると非常に細かい部分までチェックを入れて、それで評価することになりますので、そのあたりをどうするかという問題があります。施策だけならまだ、わかりますが、そうすると非常に細かい指摘をして、前回は振り返り、また委員会からそれを受けて我々はそれを議論すると、そういう作業になるかと思うのですけれども、そのあたりはどうでしょう。時間的な問題があるでしょうし。あと、評価の基準について委員

の方々によって多分違うと思います。事務事業を含めての評価をされる方と施策のみで評価される方とあると思うので、統一が難しいのかなという気はしますが、そのあたりも含めましてどうでしょう、振り返りも含めてのご意見がもしありましたら。

○委員

先ほど言われた中で、評価の低い部分について、例えば林業とか、毎回同じような回答があるわけですが、そこを深く掘り下げて課題をもう少しお互いに追及し合う時間を持つことができるのか。例えば、市の姿勢としては2年計画とか何年計画とか、幅を持たされるとやっておられる職員さんもその最終的目標に向かって仕事をしておられるのですけれども、その途中で評価したときに、こういう問題があるんだけどその点についてはどうですかと言っても、やはり長いスパンの中での答えしか出なくて、その時点で自分たちが対応するのにがらっと変わるということとはできないですね。その辺に少し問題があるのではないかなと思うのですけれども、そういう対応というか問題があったときにお互い職場で仕事をしておられる方とまた第三者的に外から見た目との問題を照らし合わせながら、方向性を変えるということができるのかどうか。ただ単に、ここまで仕事をしてきましたよ、では、この評価はどれです、どれぐらいですか、はい、これですよ、でも問題がここにありますよと言っても、長い計画ですからという形で言われると、それ以上こちらは言いようがないので、そこを早く対応していこうと思えば、その時点で方向性を変えとか、課題をもっとお互いに深く追求し合って確認し合うとか、そういうことができると早い対応ができると思うのですけれども、そういうことができるのかどうか。あるいは、評価委員会がそこまでするのかどうかということもありますけれども。

○副委員長

前回委員会の振り返りを30分間するのは、意見がなくても確認の意味でそんなには時間がかからないのであったほうがいいと思います。それから、何年か前は、先ほど事務局が言われましたように、委員会での指摘への対応の資料がありました。例えばそれだけの会議を、次の年に、今の時期か1月ぐらいに昨年こういう指摘が出ていましたけれども、これについては現在どのように対応されて、何か進んでいますかということを前もって各課に聞いて、それを集めてもらって、なおかつ今言われましたように、特に評価の低いものについては、こういうことは、今年はまだできないけども、来年からはできるならできる部分で取り組もうとしているとかいう、そういう前向きな意見を聞けるような会議を1回特別に、それだけの会議をもって、それまでに資料を全部各部署へ提出して、それでそ

れについてどのように対応されていますかと、本年度はまだ見通しは立ててませんと、でも、次の年からは、例えば予算を取ってこうするつもりですとか、そういう会議を特別に持つのはどうかな。

それと今、委員が言われましたように、いわゆる抽象的なことではなくて、できるだけ例えば、1つの課でこの2つは重点的に何とかやってもらいたいというものを抽出して、各課に要望するというのも、受けられた方も具体的にこのバスの路線のここの路線は、来年度はするとかいうのが見えてくるような、こちらのほうも要望の仕掛けをすると具体的になるのではないかと思います。

○委員

私もこの評価結果一覧という資料を見て、前の施策を評価するというのはこういうことかなというのをすごく思いました。施策としてあるものは、それぞれすごく練られていて、有効であるし必要だけれど、ではそれを実際に事業化していくときに、施策の成果を数字というもので評価するとこうになってしまうのだな。ただ、全体的に有効性と必要性は高目だし、妥当性はより下に出ているというのは、そういう点を、ここからどうするかを行政評価委員会の中でやるのか、違うところでやるのか、あるいはまた、何か別の委員会などでやるとしたら、どういうやり方でいうところだと思いました。

○委員

今すぐでなくて結構ですが、確認をしていただきたい。これは昨年の評価結果と今年度の評価結果だと、もちろん評価の規準を変更したので、変わってきているのは当然なんです。逆に言うと、同じ数字で並ぶときには、ほとんど変わってないのかどうかというのを調べていただきたい。先ほど委員が言ったように、もう施策の評価としては、恐らくどの時点でどの年にやっても同じだと思うんですね。上下水道がどれだけ大事ななんていうのは、今年と来年と再来年と評価を何回しても変わらないと思います。必要性について来年になったら上下水道が必要なくなるということはある得ないと思うんです。ということは、この数字そのものが出てくるのは、この数年である程度出てきているその標準値が、全部妥当性をもって評価されているんだと思うんです。だから、そこをまだそのままずっと毎年同じように評価をし続けるというのは、もちろんさっきも言ったように、それが行政評価委員会の役目であれば、それを絶えず出していけばいいのしょうけども、それは何となく実際の今後の市政に生かされているのかといったときに、そこを振り返っている意味を持たせるためにどう考えるかなのか、もう少し議論が市政に反映されるようなところ

ろで評価をしたほうがいいのかというのは本当にそれが今後の行政評価委員会のあり方だ
と思うんですけども、ぜひ一度、去年と今年の評価について同じ数字で計算した場合に、
それほど大きな違いがあるかはデータとして入手したいと思ったので、お願いします。

○事務局

それでは、この○とか△とかというのは、今年基準を変更したので、これを比べても
意味がないですが、純粋な点数、20点、15点、5点、1点という評価点数の区分は変えて
いませんので、点数だけ比較したものはすぐつくれると思います。また、送らせていただ
きます。

○委員

もう一つ、先ほど出ていますけども、この委員会の役割というか、あるいは限界という
か、それははっきりしておかないと多分、ずっとあやふやなままで行ってしまうと思うの
ですが、どのあたりのところで我々は役割を果たしたらいいのか、どこまでが我々がやる
べきところなのか、そのあたりを、はっきりとしておいたほうがよいと思うのですが。

○事務局

行政評価委員会につきましては、総合計画にはっきりと役割は書いてあります。市が
行う政策、施策、個別の事務事業について、事務事業については市が内部評価を行います
が、政策、施策につきましては、外部評価によって成果時期を設定した指標の必要性、そ
して効率性などを客観的に評価すると。その理由というのがまず、計画の進捗状況という
のは、行政が把握するだけではなくて、市民に説明し、共有していくことが必要である
ということで、進捗管理を外部評価によって客観的に進めていくとされているので、進捗管
理をしていただく、そして、指標を設定しておりますので、その指標に行き届くように外
から民間なり、それぞれ学識経験なりの視点でご指摘いただくことかなと思っています。

○委員

進捗管理というところもある程度、提言めいたところまでは言えるということですか。

○事務局

ご指摘をいただけると、評価だけではなく、進捗管理ということになりますので、有効
なご提言であれば、お受けいたします。

○委員

少しわかりにくいのですが、例えば、林業とか先ほど副委員長が言われましたように、
問題点のある部分がありますよね。そういったところを視察も兼ねて何が問題かというこ

とを実際みんなの目を見て、その現場を見て話し合うということもできるわけですか。

○事務局

委員会の総意であれば、そういった意見を受け付けて、対応できる部分はします。

○委員長

前に一度、現場に寄せていただいたことがあったと思うんですが、私もちょっと現場に行った経験があります。

○事務局

日程等を調整できれば。

○委員

先ほど意見がありましたが、毎年同じように○や◎が変わらない数値のあるところを、見る必要がないということであれば、かえって課題のところをどうするかという深い掘り下げや議論が必要なのではないかと思います。やはり赤字のところをいつまでも赤字のまま果たしていいのかという思いがありますけれど、普通市民だと税金が全部赤字で流れていって、ちっとも改善しないというのは、果たしてそれが望んでいるものなのかどうかというと、みんな違うと思うのです。だからそこを何とかしていかないと、当事者だけでも、何が問題なのか、どこに手をつけていいのかわからないところも中にある場合もありますので、もっとお互いにディスカッションして、どこから手をつけないといけないのか、どういう方法があるのかというのをもう少し深く掘り下げて、せめて×から△にするとか、△のところを○に持っていくとかいうことが必要ではないかなという気がします。

○委員

今の前提としてあるのは、基本計画の中でということがありましたね。ということは、その施策に関する有効性とか必要性というのは、もう既にこの施策は5年間でやりますということがあった上で、この施策に関する有効性、必要性は、この5年間の中で見ていたら、我々としてはやはり有効である、あるいは必要があると判断するのはもうその所与のものを次の段階でどうしますかという意見になってくるということですよ。かつ、今議論されているあたりは妥当性とか効率性がそれをそれぞれ成立させていくのに、個々の事務事業が妥当に行われているか、統一性を持っているかという点を評価するという、その2つですけれど、その有効性、必要性に関してはもう、次へ向けてということと判断していいのですか。

○事務局

次期計画が、来年度からまた動き出すので、こういった形がつくられていくかわかりませんので、なかなか難しいところがありますが、皆さんがおっしゃるように、必要性和言われているもの、必要だから施策に載っているということを前提とすると、やはりネクストにこれが必要かどうかを話してもらっていると考えてもいいのかなと思います。

○委員

こういうことをいつも私たちの意見がその次のつくられる方のところに聞こえているのかどうかということなんですけど。

○事務局

行政マネジメントサイクルというものがありまして、プラン、ドゥ、シー、もしくはプラン、ドゥ、チェック、アクションの4つのサイクルで回っている。行政評価の部分で、一番大きいのはチェックの部分です。プラン、ドゥは行政でやっていますけれど、チェックの部分です。しかし、チェックだけしていただくと、なかなかアクションにつながらないので、アクションに向けてのご提言をこの評価委員会でしていただきまして、今後も進んでいただきたいなと思っています。

プランについては、これは総合計画が今3年目ですので、今後4年目、5年目へとつないでいくわけですが、後期基本計画が平成28年から32年までですので、来年度予算付けをしております、2年間かけて後期基本計画をつくっていただくことになっています。これは総合計画審議会というのが前回40人の委員で検討していただきましたが、その計画審議会には、行政評価委員会の報告書等はもちろん出して、このように行政評価委員会から評価していただいています。施策について行政としてはこのようになっていきますということは申し上げると思いますので、次の総合計画に結びつかないということはありませんので、議論を踏まえて次の計画をつくっていただくということにはなるかと思います。

○委員長

また、その他のところで、全般の議論をいたしたいと思いますが、とりあえずここでは会議の流れについてですが、まず流れについてこれでいいかどうか。その他については後の、全般のところで議論ができればと思います。とりあえず、今年度と同じようにというようなことでよろしいでしょうか。

○事務局

1点だけ補足させていただきますと、2章ずつ今後やっていただくということになりますので、今年度、評価していただいた施策については、今までどおりですと、次の年度に

この施策はどうなりましたかということをご質問をしていただける機会がありましたが、来年度は次の２章をやりますので、今年の担当職員が今度は来ないです。ということは、今年度の指摘は、確認できないので、一定そういう機会を委員長がおっしゃっていただいたように、年度末に設けるかということは事務局で検討させていただきます。

○委員

ペーパーでやるのか、まとめて担当課長に来ていただいて、議論も含めた形でできるのかどうか。

○事務局

事務局で検討させていただきます。

○委員長

ここはこれでおさめさせていただいてよろしいでしょうか。ありがとうございます。

[② 資料全般について]

では、次ですが、資料全般についてお諮りいたします。

昨年度から全ての「施策評価調書」、「事務事業評価表」を第１回委員会におきまして頂戴いたしました。委員会当日には、総括評価の事務局案を記載いたしました「前回評価」、それから、委員会当日に評価する施策の「事前評価集計表」、「評価理由一覧」、「事前質問、回答一覧」が配付されておりますけれども、過不足があれば体裁などを含めまして意見等お願いいたします。

○事務局

例えばこういう書類があったほうがいいのか、体裁についてこういう欄をつくってほしい、そしてこの欄は要らない。そういったことを言っていただければ、来年できる範囲で対応させていただきますので、よろしくお願いします。

○委員

形式の問題というよりは、運用というか、我々がそこに何を記載するのかということに関しての議論というか、さっきも言わせてもらったのですが、評価といった場合に、どの部分を評価するとか、この部分が少し評価できないので改善が求めるとかというような、そういう評価、まさにチェックという部分をするところと、各委員の中の評価にあるということをしてもらえないかとか、してほしいなどの記載を色分けをして、伝えたほうがいいのかというのは自分で書きながらも感じていたので、これは運用なので、様式そのものに

対することではないですけれども、運用に関しては少し議論が必要という気はしました。

○委員長

そういうご意見でございますが、具体的に記載するのは多分、事務事業の中身に入ってしまうと思うのですが、事務局、それでもよろしいでしょうか。施策にぶら下がっている事務事業についての具体的な意見になってしまうのですが。

○事務局

これまでから、事務事業に対してご意見というのは、いただいているところではあるので、それがだめという話にはならないと思います。そして、委員が言われているように、委員会としてのトーンですね。ここでの議論の仕方、このペーパーも含めて、何か考えないといけないと思います。

○委員

毎年出ていると思うのですが、事務事業のどこかが悪くても、施策全体を考え、総合すると、悪いところだけ見えなくなってしまうと、結果的に評価が上がるということがあり得ますので、そのあたりが評価するときに難しいというか、やりにくいところがあるのですが、そういうことを主に意見などとして伝えていければ。

○委員

そう、意見として、トーンを統一をできれば、色分けもはっきりつく。

○委員

実際に評価報告書をご覧になった方は、どのような意見とか感想があるかお聞きになっておられますか。

○事務局

昨年度 24 年度につきましては、各大学、市の職員の次長級以上、それと全議員に配っていますし、課長級以上の職員には電子データでお知らせしています。特に一部の市議会議員からは、これだけ議論してくれているのだったら、聞きに行きたいというようなことを言っておられ、評価委員会に実際来られた議員さんもおられました。

市民からというのは、ホームページでも公開していて、情報公開コーナーにも置いていますが、直接感想というのは聞いてはおりません。

○委員

前年度の外部評価と比較できればいいということをおっしゃって、○とか△、委員会でも決定した今後の方向性というのはもうなくなっているんですけれども、評価基準、

点数などを変えて、全てが前年度と比較できるものではなく、余り大変わりすることはよくないと思うのですが、それでもより詳しくそれぞれの評価はどうかということを見るのに、先ほど委員長も言われたように、全体ですると悪いところもみんな全体の中で隠れてしまうところがあるので、この主施策コードごとに主要事業が書いてありますけれども、そこにもう何らかの現状にする対策、課題があって×とか△とか○とかそういう評価も入れてもいいのだろうかと思ったりするのですが。

○委員

全部やり出したら到底時間が足りない。先ほど委員長が言ったのは、ここでせめて議論になった事務事業に関して、ちゃんとこの事務事業に関してこういう意見が出ましたとか、ここについては全体の評価はこうだけど、もっとこうしたほうが良いということをもう少ししっかりと抽出してもらって、見える形に表現していただくということは僕は必要だと思うのですが。

○委員

表現だけでなく、この事業コードのところに、例えば、そこが×だったら×だけにしておくとか、●にしておくとか、課題があるということを、ここだけは課題がある事業だということを見てもわかるようにすると、もう少し担当者の方も意識が高まって。

○副委員長

事前評価チェック表の中に、例えば、改善を希望する項目などを書くのはできますか。

○委員

ただ、そこまで書くとまた大変か。

○委員

そうです。我々も事務事業を全部チェックしようとする、全部突っ込みだしたら大変です。だから、そこはやはり施策評価という一つの中でできる。でも、その中でも気になったものは、委員会でも議論になるわけですから、それは事務事業であっても議論したものとして残しておくべきだとは思いますが。

○委員

特に改善を望む点とかいう項目はあってもいいかなと。

○委員

例えば、この中で委員が、この点おかしいなと思っているということがわかりますし、総括評価の中で、それを入れることは可能ですよね。

○事務局

委員さんに問題がないようでしたら、事務局としては欄をつくるだけですので。

○委員

あと、僕が思っていた評価なので、こだわるんですけども、一覧にしたときには低い評価が出ている事業が、明確にわかるわけですね。その場合、やはり低いというところに関しては、我々もその数字が出た以上は、何らかのその付記する部分をお聞きして、何で低いのか、この部分の改善が必要だからじゃないかということを連動した形でやれば、単純に公共交通ネットワーク整備と文化芸術の振興というところの妥当性について、やはりほかと比べれば明らかに低い評価をしているわけですから、せめてそこに関しては、こうしたほうがいいのかという提言をつけて渡さないと、これを引き上げようという働きに、我々がただ単にチェックしているだけになるので、僕としてはせめて出てきた時点でもいいので、何でここが極端に低い数字なのかということに関しては、一旦、我々が一つずつここに対する詳しい提言を出すべきだとは思うので。それを先ほどおっしゃっている、ある程度評価しているものまでチェックしだしたら、煩雑かなという気はします。

話は戻りますが、委員会開始前 30 分の振り返りですが、その時点で前の時間にやっていた議論で、書いてあることも確かにそのとおりの議論したし、だけど、今言っているように全部出たときに、そのときに出した評価の言い回しが、評価が、よくやっているというニュアンスなのか、やはり我々がもう少し評価ができませんでしたというもののなかは、やや相対評価的なところがあるので、絶対評価でいけばいいのですけれど、でも、トータルで見たときには、何回か後にあのときの表現をもう少し高く言っておいたほうがよかったかなという感想が出てくる感じが、僕の中では特にあったので、何かこの最後の総括評価の結果を見たときに、この 2 つぐらいは最終回に議論するというようにして全体の評価が終わってもいいのかな。

○事務局

去年までは全 57 施策も年間で評価していたので、最後にまとめたものを、時間的に皆さん多分、見比べられない。ただ、今回からは 15 から多くても 19 施策の組み合わせなので、十分最終回の前に今、お渡ししたような結果一覧と、それまでにある程度まとめたものを渡して、さらにもう一回ご議論いただくのは可能かなと思います。

○委員

実際、そうさせていただいたほうがいいと思います。やりっ放しで終わるのではなし

に、やはりこちらの評価を出したら、それなりのリアクションがあって、委員会に、このようにやりますとか、善処しますとか、こういう理由でできませんとか、そういう返事をいただかないと、次につながらないような気がしますので、その結果というのを持って、議論を行うのかなということは思います。

○委員

追試ではないですけど、この後、改善されていなかったら、もう一回呼ばれると言ったら、もっとみんな頑張るぐらいのモチベーションがあるから、そういう仕掛けもあるかな。これで、この公共交通ネットワークと文化芸術の担当者だけ呼ばれて、やりにくだろうという考え方で、何か頑張る意欲になっていただけたら、我々の委員会がそういう役割を果たしてもいいのかなという気はします。

○事務局

ただ、予算や制度的なものなど関係なく、工夫だけで改善ができるような指摘を受けた場合は、追試を設けられると、行動しようかなと思うと思いますが、例えば、予算の縛り、来年度もまだ予算が確約されてないとか、その計画が長期にわたっていてどうしても今年度は困難となった場合に、追試を当てられると各部署も厳しいかなと思いますが。

○委員

▲がつくような施策というのは構造的な問題の部分が多くて、普通、林業をどうする、漁業をどうする、それは、評価するのもつらい。だから、来ていただくのはいいのだけど、今後の皆さんが実際違う転換をしていくときの何か、ヒントになるようなことを一緒に考えましょうぐらいなイメージのほうが来ていただくときにはいいな。

○委員

別に予算がどうかではなくて、どうしようと一緒に悩む時間も我々と共有しようというスタンスできていただくようにしたらいい。もともと僕はそう思っている。なんでこう何か対決姿勢なのかなと気になっている。やむを得ないかな。僕は緊張感は大事な役割で、チェックなので必要なのですが、でも、我々の思いとしては、逆にそこまでのフォローをしてという意味では、例えば、それはバスだって簡単に売り上げが上がって、もうかるわけじゃないし、赤字でペースが悪いのも十分承知だけど、でも、やっぱり問題点があるとは我々が指摘したわけですから、来年すぐ出なくてもいいし、次の計画でもいいし、新しい何かできることがないかというスタンスで一緒に何か話をしませんかという形でできていただくというか、さっき追試と言いは悪かったと思いますが、そのような場

でいいと思います。別に明日からするとかではなく、だけど、やはり問題点を共有して、外部の人間の意見も聞きながらというスタンスで本当に考えていただけるならば、それはすごく喜ばしいというか、市の中でもそういう機能があったらいいという意味ではそういう位置付けをしていただくほうが、我々も色々なことを自由に、もっとこうしたらいいのにみたいなことが言えた方がお互いのためという気はします。

○委員

普通、企業では赤字だと給与に還元しますよね。そういう状況が余り見られないんです。たまたま林業に携わっているから今までも引きずってきて、問題があったのを改善しなかったから、したって仕方がないという、そんなに大きな改革もできないしという姿勢でもし仕事をしておられるのだったら、そこをもう少し何とかしていただきたいと思うんですけども。その辺をここで腹を割って色々と案を出して話し合うのも一つですよ。例えばこういう一つ方向性を持ってきましたという中で、ではもっとそれを広げるにはどうしたらいいかという話し合いができるような、そういう姿勢が欲しいなという気が。難しいと思いますけど。

○委員長

議題は、資料の件ですが、まず1つは、前年度と同様今回もまとめて第1回の委員会で全部の資料を配っていただいたということですが、来年度もそのような形で事務局としては考えていると思うのですが、僕自身としても前もって資料が見られますので、僕はいいかなと思っています。あと、どうでしょう、もっと資料がほかに要るとか、あるいは、これは要らないとかというようなこともございましたら含めて、議論をお願いします。ここは資料に限って議論を再開して、また全般のほうでも議論いただくと思いますので。

[③ 委員の年間作業行程、作業量等について]

○委員長

委員の年間作業行程、作業量等につきまして、議論お願いいたします。

昨年度から新たな総合計画のもとでの評価となっており、施策について評価をしていますけれども、今年度からはローリングで評価を行うこととして、総合計画に規定されております全6章のうち、第1章と第2章の計15の施策の評価を実質4回の委員会で行いました。委員会は毎月1回の開催で、1回当たり3から4施策の評価、また、委員会開催にあたりましては、事前質問からおおむね1週間程度で回答を受けて、委員会の3日程度前

に事前評価を提出するという日程でございましたけれども、このような作業行程、それから作業時間、作業量につきまして、その妥当性も含めまして、議論をいただければと思います。よろしくお願いします。

○委員

全体の量という意味では、やはり昨年と比べて、非常にゆったりと見せていただくことができたと思いますし、よかったと思います。一方で、私は一昨年と比較をするならば、大変な量を、初めてやった年に大変だなと思いながらも全体を見たときに、それぞれの事業として互いに関係しているなという関係性を感じ取ることができたのです。ところが今年は、それができなくて、一つ一つはわかったけれど、これは全体の中でどういう位置づけで、どれと関係しているかというところが、その前に私はやっているの、そこをもう一度思い返してできたんですが、もし、これが初めてやられる方が今年のような量としたときには、やはり全部が全然関係なく独立していると思ってしまうので、そういう意味で全体を把握する部分というのが、何かしらあったほうがいいのかというようなことを思いました。

○委員長

全体の資料だけは、第1回目にいただきました。一応、それを読んでいただければ全体のことは理解できます。読むのは大変ですけど。

あるいは評価施策を選んでいただくときに、今年度と来年度をある程度リンク度の高い施策を選択していただいたほうがいいのかと個人的には思います。全体を把握できない中で、少しでもリンク度の高い施策を選択していただいたほうが。

○委員

委員として、それだけの注意を払うということも大事とは思いつつながら、私が感じたのは、この場で皆さんに来ていただいてお話しいただくときに、その話の中で、これはあれと関係しているとか、その気付きがすごく多かったの、そこから文面だけでは読み取りづらいというのがあったかもしれないと思うと、これは欲張りかもしれませんが、これも一回聞きたい、最後の全体のところで聞こうとは思っていたときがあるのですが、逆に私たちがやっていることに対して、皆さんがどういうやりにくさとか、答えにくさを感じているかという部分も、議論を深めるためにはお聞きしたいなというものもあって、皆さんが答えられる内容と、私たちは全体を見ているというところが評価をするという部分が大事なところだと思うので、そこがもう少しこの方向でより改善できるようなところがあれば、

具体的にでは、どうするのというのは今、うまく出ないのですが。

○委員長

例えば、直接かかわりのない所属の方に1名来ていただくということは可能でしょうか。関わりがないものの関連するどなたか代表者の方に来ていただいて、例えば、これに関して関連する質問をその方にさせていただくということは可能でしょうか。

○事務局

関連性が事前にわかっているのであれば、委員さんが知りたがっているのので来てくれないかという声かけは可能とは思いますが、事前の指定がないと、少し難しい。

○委員

その関連性ということについて、当事者である皆さんが、そこを常日ごろ思っていられるかどうかということも含めてどうかなと思います。私たちが第三者として関連していると思うことが、結構大事なところのような気がしていて、もちろん、色々な意見がここでも出るので、予測し難いかもしれないですけど、多分こうであろうということで、もし可能であれば同席していただくとか、可能なときにはいいのかなと思います。

○事務局

委員会からの要望ということであれば、できると思います。

○委員長

後で事務局のほうで、この課はリンクしてそうだというようなところをピックアップしていただいて、そちらの所属のどなたかに来ていただくということで。そういうことも考えていただいたらということですね。

○委員

基本的なことをお聞きしますが、今言われた関係課のことで、施策自体もその関係課が集まって討論がされて決めているのか。そうではなく、後々事務的な処理で、この項目についてはこの課もこの課も関係があるよと書かれているだけですか、どうですか。

○事務局

施策評価調書の書き方だけで言わせていただきますと、施策は大きいものですので、例えば、都市計画みたいに確実に都市計画課だけの施策というものは、わかりやすいですけれども、様々な事業がリンクしている場合は、中心となる課は決められていますので、その施策を担当する課というのが、関係所属にペーパーを出してもらっているのか、直接議論してなのかはわかりませんが、全ての関係する課とコミュニケーションをとってつくっ

ているのは確かです。実際の施策をつくるのは、総合計画の審議会になってきますが。

○委員

それならば、私たちがいただいている事前評価の資料とか意見とかがあって、委員会にもその関係の方に来ていただいて、聞きたいことがもし出たらそれは可能であるということですよ。それであれば、全体会議後、ちょっと問題のある、課題のある施策についても来ていただいて、もっと大きい議論ができるということもあり得るんですよ。

○事務局

関係している所属、施策にぶら下がっている事務事業評価をつくった所属については、これまでから委員会当日に来ていただいていると考えていただいて結構です。総合計画をつくるときもその関係所属が寄ってつくりましますし、この施策評価調書をつくるときも、その関係課長の意見を入れてつくっていますので、この行政評価委員会のときも、関係所管課職員も来ております。だから、リクエストでこういう課長にも来てほしいということでしたら、それは事前におっしゃっていただければ、来てもらうということは可能でございます。

前回ですと、下水道のお話のときは下水道の担当だけではなくて、ちゃんと農集排あるので、農林水産課の職員は来ていましたので。

○委員長

その点につきましても十分考えていただいて、ほかにはいかがでしょうか。

(休憩)

[④ 施策の評価項目、評価の内容について]

○委員長

それでは、施策の評価項目、評価内容につきまして、議論をお願いいたします。

現在、有効性、必要性、効率性、妥当性について、20、15、5、1点で評価を行っており、議論の内容などから、次回委員会において振り返りを行った上で、総括評価を含めて確定を行ってまいりました。

また、昨年度までは、各項目について、その平均点を委員会の評価として高いが◎、やや高いが○、やや低い△、低い×の4段階で評価を行ってまいりましたが、今年度からは高いが◎、やや高いが○、やや低い△、低い▲、極めて低い×の5段階とし、配点と評価の関係も厳しいものとししました。この評価の項目、点数、文章での総括評

価などに関しまして、何かご意見等ございましたら、どうぞよろしくお願いいたします。

結果を見てみますと、かなり厳しい部分が出たということでございますが、私はこれで妥当ではないかなという気はするのですが、委員さん方いかがでしょうか。

○委員

ローリング形式となるので、ここでまた変えるというのは非常にまずいですよね。

○委員長

あと3年間はこれでやるということで、よろしいですか。

特に大きな違和感はないようです。

[⑤ 外部結果報告書について]

○委員長

外部評価結果報告書です。

昨年度とは幾つか変更点があるようですので、まず、資料の内容につきまして、事務局よりご説明をお願いします。

○事務局

皆さんにお配りしているこちら、議題（２）－⑤、外部評価結果報告書の構成という資料の真ん中から左部分が昨年度の報告書の構成、そして、右部分が事務局案でございます。

まず、昨年度の基本的な構成を変えるつもりは今のところありませんが、昨年度の報告書に加えて、外部評価実施方法のところの２点目ですけれども、昨年度との変更点という説明項目を加えたいと思っており、ここで報告書の見方をわかりやすく説明をしたいと考えています。

次に、今年度評価した施策と所管一覧という項目を加えたいと考えています。昨年度までですと、総合計画で位置づけている施策と所管一覧表を見せた後に、すぐ外部評価結果及び外部評価調書の見方というサンプルのようなものを載せていましたが、そのサンプルを載せる前に、今年度評価した施策と所管一覧を全体の所管課一覧と比べる形の資料を載せます。さらに、今年度委員会として評価を行っていませんが、行政が作成して、皆さんにも第1回委員会でお配りしている施策評価調書についても、行政評価委員会の評価及び内部評価結果の後に、皆さんの評価はしてないけれども、内部評価を行ったということで評価対象外施策の行政の内部評価結果として加えさせていただければと考えています。

全体的な流れについては、基本的には一緒ですけれども、3点、昨年度との変更点を説

明するもの、今年度評価した施策評価の一覧表、そして、皆さんに評価はいただいてないが行政でつくった外部評価結果をずらっと並べてみてと、こういった形で外部結果報告書をつくらせていただき、事務局で作業を進めさせていただきたいと考えておりまして、昨年度と同様、案を作成をしましたら、皆様にまず期間を決めてお伺いして、最終的には委員長と一緒に決めさせていただければと考えております。

皆様のご意向をお伺いしたいと思います。

○委員長

ありがとうございます。これにつきましては、事務局のほうで作業をしていただきますけれども、何か先ほどの中で、これをしたらいいなというようなことがございましたら、よろしくをお願いします。

事務局に一任でよろしいですか。ここは事務局に整理させていただくということでもよろしいかと思います。

[⑥ その他、行政評価委員会全般]

○委員長

では、最後になりますが、その他、行政評価委員会全般につきまして、全般的に、何でも結構でございますので、ご意見をいただければと思います。

○委員

もしかすると報告書に関わってくるかもしれないですけども、チェックをして、そのチェックがどこについたかということが、市民に伝わるような表現を我々ももう少し意識して出していったほうがいいのかということで、報告書に項目をつけてもらってでも、評価できますよという部分と、もう少し努力したほうがいいのかというものは、分けてきちんと表現し、各担当課にそれが伝わるようにしていくことがすごく大事なかなということは、今日の議論を聞いていても、改めて思いました。

○委員

今の意見、具体的に今の作業でいくと、事務局がされている内容を資料としてまとめる際に個々に出た意見を主に取り上げて出してもらうということですか。

○委員

いや、委員会としてでいいと思うのですけれども、ディスカッションし、各委員の意見が出た上で、委員会として改善点とか、評価する部分としてどのポイントが出たんだとい

うことをもう少し、我々の中でこういう意見として、しっかりとしたものを箇条書きみたいな形で拾っておいてもらうということが大事なかなと思います。

○委員

それは委員会の総括評価と、また別個に。

○委員

それを表現というか、書いてあったらいいので、色分けをして書く工夫をしていただくほうがよりいいのかなと思います。評価として書いてあるところに、もっとこうしてほしいということが書いてある評価の部分もあったり、意見のところにそれが書いてある表現のときもあれば、評価ができますという評価をしているときもあればということで、これは我々のしていた議論は多分、すごく重要な議論をしているので、あとはそれをまとめるときに、もう少しそのあたりが色分けができて、表現できているほうがきちんと我々が評価した部分と、改善を求めているところがあれば、はっきり相手に伝わるのかなと思うので、それを今までは事務局に完全にお任せしてしまっていて、何となく我々も自分たちの言ったニュアンスのことが文章として書けていればオーケーを出してきているのですけれど、そうではなくて、もう少しその項目をはっきりさせた方が、より一層委員会のメッセージが伝わるのかなという、見せ方の部分の話です。

○委員

ある程度、例えば、私たちがいただく事前評価集計表はいいのですけれども、後ろの総括評価も議論やら説明をいただく前に書いていますので、これは議論した後に書いたほうがいいのかな。取りまとめる場を持たなければならないと思うのですが。

○事務局

今、委員がおっしゃった点については、そのとおりで、事務局としては、委員会での皆さんの意見と事前評価とか文章でいただいたものはエッセンスを拾い集めてきて、こちら総括評価の案をつくったりとか、委員会の意見というような報告書にある欄をつくったりしているのですけれども、そこをもう少しシステマチックに、例えば、やり方はいくつかあると思いますが、毎回委員長のほうから例えば、委員会の自由討論が終わり、皆さんの意見がなくなったときに、では、評価のできる点はありましたか、そして課題は何でしたかと振っていただく約束事を何点か決めておく。そうすると、言葉で余り苦勞せずに事務局としては、委員会の意思を拾いやすいです。もう1点は、かなりご苦勞されると思いますが、事前評価の段階で、文章で3点ぐらい追加して書いていただいて、最終回の前ぐ

らいでそれをもとに議論をして、総括評価を拾っていくということです。

その点までいくと、委員が今、おっしゃっていただいた点については、その評価、事後にするのか事前にするのかというところはまた、別に変更できますので、来年度委員の皆さんの意思で決めていただければ結構かなと思います。事務局としては、総括評価の案を事務局でつくらなければいけないので、総括評価の案をつくる前に、各委員さんの総括評価をいただければ結構ですので、事前にしようが事後にしようが、そちらは委員さんのやりやすいほうに決めていただければと思います。

○委員長

評価の点数を出すときに、必ず評価をして出すわけですから、一応は総括評価を書くと思うのですが、また、議論した上で修正等は可能でしょうし、これは事前に別に変えても問題はないのかと思います。

○副委員長

今もその時間をとっていただいて、我々が修正をすれば変更してもらえているので、そこで自分なりに違う評価に変わったのであれば、委員本人が責任を持ってそこで訂正すればいいかなと思います。

○委員長

それだけで口頭でも修正していただいたりとか、それでよろしいかと思いますが。

○事務局

今年度のやり方でも、事前評価について、各委員さんのリクエストがあった場合は変えていました。

○委員長

それがどうしてもいけなければ、後日個人的に事務局にその旨をお伝えいただければ。すぐに別に作成されるわけじゃないですよ。何日か期間はあると思いますが、その間に事務局に個人的にまた、連絡いただければ反映していただきたらと思いますけど。

○委員

すごく煩雑になってしまって、ここまで細かく見ると、大変になってしまうのかなというようなこともあって、自分でも迷いながら考えていることですが、全体的な評価と総括評価とこの委員の評価というのは、ある程度ざっくりしたもので出てくるんですけど、そのベースにあるのはそれぞれの事務事業なので、それで、事前に質問して回答をいただいて、そのときに、非常に具体的にこうしていきますと書いてくださっていることが

結構あるんですよ。ここで議論しているときもそうですけれど、それがまた次にどう生かされているかということですが、その次の年度に、それぞれの程度進んでいるのかというのが、本当にそれを進めていっていらっしゃるのかどうかというのを聞かせていただくと、少しずつでも全体施策に向かっての具体的提言が見えてくるという気がします。今のところその辺は全部放置しているので、余りそこまで詳しく、細かくやるのは、次の年に厳しいのかどうなのかなとは思いますが。

○委員長

これ、最初の議論に出ていました。その後工夫されたのか、あるいはどのような方針で臨まれたのか、どんな結果が出たのか、適当なところに、お話いただく機会というのにも必要なかなとも思うんです、1回ぐらいは。全部でこれ10数施策ありますから、大変でしょうけども、簡単にでもそのあたりの説明をいただく機会もある意味必要かなと、話を聞いて思うのですが、そういう機会というのは、どうなのでしょう。

○事務局

先ほどのお話の中で、今年度指摘した事項がどのように対応されたのか、それについては、対応可能だと思うので、一定検討して、その中で、細かな事前質問が実行されてるかということも含めて、来年度、実績評価を行った後ぐらいに少し時間をとって、どの項目を聞いていくのかというのをすり合わせたらいいと思います。そして、そのための資料についても検討します。

○委員長

◎や○などの評価のところはいいと思いますが、△や▲のところをさらにお聞きしたいようなところではないかなとは思いますが。

○委員

これは一番最初の議論で、僕もそうあるべきだと思います。事前の段階として、我々の評価としてある程度今、言っているように、どういう改善とか、あるいは少しこうしたほうがいいのかということが、きちんと相手に伝わった、あるいはその評価をした時点で、もう少しこのことについては修正が必要ではないかということが明確に伝わっていないのに、いきなりどうなっているのかと言われても、何のことですかとなると思うので、前段階として、今年度の評価をする場合に、ある程度その先、追試と言ってしまいましたけど、そこで確認をするという意味では、それはある程度聞きたい、あるいは聞いて次につなげてもらいたい課なり、その事業に関して、我々はそこをちゃんと指摘をするものが

相手に伝わるようにしておく必要があると。

○事務局

来年度の委員会はそうしていただくと、再来年度にその進行を聞くときは聞きやすい。来年度に来ていただく際には、やはり事務局から事前に皆さんすり合わせた上で、各課にこういう質問が昨年出たが、今年度どう対応しましたかというような形で連絡すれば、その所属も事前準備ができた上で望めるかなと思います。

○委員長

来年度はこうのように考えていただいたらと思います。

○事務局

いずれにしても、委員さんだけの集まりのときに、整理してもらう時間は若干要るのかなという感じはします。単純に例えば、今年度の 15 施策の中で、△と▲があるなど、幾つかピックアップされれば、10 施策ぐらい残ると思うんです。その中で、委員さん同士で意見交換していただく若干の時間が必要なのかなと。いきなり次から次へと施策の対象の課が待っているときではちょっとしんどいかなという感じはします。

○委員長

事前に委員会で話し合って、この施策に対してはこういう質問をさせていただく。

○事務局

そのタイミングが必ずしも年度が終わって、最初でやらなければいけないということもないでしょうし、日程が合えば施策評価をやっている間にそういう部分だけの会合を持っていただくということも可能かもしれませんし。

○委員

一度、それだけのための日をつくるのか、例えば、今年も 3 施策のみの評価の日もありました。例えば、その後に少し話し合うことも可能ではないか。

○委員

時間がたつと忘れてしまうので。議事録が残っているから、それをもとに議論したほうがいいような気がします。

○事務局

それと、ある程度のピックアップは事務局ですと思いますが、疑問形で終わっている部分だけピックアップして、議論いただく。

○副委員長

今年から委員会の事前に少し、前の振り返りをするということがあるわけですね。そういう点で、せめて▲がついているということは、その時点でもう少し我々のメッセージとして、この部分についてチェックしたんだということを確認する作業をしておけば、その場で、あのときどんな議論していたかなんていうよりは、我々も意見を求めやすいのかなという気はするので、やはりこの色々な議論以上に、数字で出ているものに関しては、責任をとって、低い評価ならばその理由をきちんと追記するということを意識しておけば、その都度、確実にその施策に対する改善してもらいたい点、あるいは我々として出た意見というのは、残るのかなという気がします。

○委員

もちろん全部評価が出てからのほうがわかりやすいのですが、では、今からこのときの事を思い出して話せと言われてもできないなと思います。委員会の前に、30分議論をしているので、そのときに前回、ここが低い評価になっているということに関して、きちんと振り返っておくということを作業としてすればいいわけですね。

○委員長

今年度は不可能ですので、1年後です。事務局に議事録が残っていると思いますので、そこから問題点をピックアップしていただいて、それについて来年度の委員会で日程を取って、そこで集中的に議論していただくという、そういう形でよろしいですか。

その次の年度はまた別のやり方でやっていただければ、とりあえず来年度は、そういう形でということですね。

そうすると、一応、△が出てる施策は全部聞いていただくということでよろしいですか。

ただ、同じ△でも評価の高い方と低い方がいらっしゃいますので、特に低い評価をつけられた方を中心に、その委員会のときにはご発言いただければ。

○企画振興部長

評価のあり方で、過去に私は説明する側であった時期もございましたので、そのころは今のよう施策評価ではなしに、事務事業評価でございまして、この場合は事務事業によりますと、市として裁量権のかなり高いものとほとんどないものとが同列に並んでおりましたので、その当時、相当委員さんと生活保護の関係で議論はさせていただいた記憶があるのですが、なかなかあの分野になりますと、市として行える部分がほとんどない、あるいは国民年金制度というのは、今回はどの部分も上がっていませんが、基本的に国の事業でございしますので、そういうのがない。片や、まちづくりなどになりますと、やはり市の

様々なバックボーンとしてやっていく。まさに手腕が問われるという。この施策評価に変わってきたことによって、私以下市職員として経験させていただいた側からするならば、この委員会での議論は非常に参考にさせていただけると感じています。ただ、時折出ておりました漁業だとか、林業だとかいうのは、もともとこの事業の背景からいたしまして、就業人口が少ないということと、それから、ニーズそのものが市の全体のニーズから比べるとパーセンテージが低いということと、特に林業ですが、実際の仕事は一部事務組合、彦根市犬上郡営林組合、それから多賀にあります大滝山林組合、それから彦根の米原になっております彦根市、米原市山林組合など、基本的には一部事務組合によって、具体的な切り出しだとかいう日常の業務がなされておまして、残念ながら具体的な作業内容を彦根市の職員が詳細にまで承知しておらないということで、十分に説明できないという歯がゆさがあります。それから、漁業に関しましては、彦根市の特徴ですが、漁業組合がたくさんあるわけです。滋賀県内でもここが一番多いのですが、ですから特定の漁業組合さんとタイアップして何か仕事をするということでは、なかなかバランスの関係でしにくいという私どもの抱えてる特殊な背景がございます。ここら辺はちょっと現状説明だけということをお願いします。

○委員長

ありがとうございます。どうでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日の議題の審議はこれで終わらせていただきます。

これで今年度の委員会は終了ということでございますが、本当に1年間まことにありがとうございました。委員の皆さん方もどうもありがとうございました。

[閉会]

○企画振興部次長

委員の皆様方には、本日は長時間にわたりまして熱心にご審議いただきまして、ありがとうございます。

今年度最後の行政評価委員会ということになりますので、市長にかわりまして、堀川企画振興部長から一言ご挨拶申し上げます。

[企画振興部長あいさつ]

○企画振興部長

どうもありがとうございます。今年度の行政評価委員会の閉会にあたりまして、一言お礼とご挨拶を申し上げたいと思います。

本年度の行政評価委員会につきましては、昨年度には全施策を評価いただいたわけですが、総合計画の施策のうちの 1 章と 2 章、15 施策という形で、評価いただいた数は減ったわけですが、その一つ一つの評価、施策に対するご議論、あるいはご意見という点では、じっくり時間をかけてご議論いただいたのではないかなと思っています。また、出席しておりました事業担当課につきましても、真摯に受けとめたものと思っています。

彦根市におきましては、これまで私ども独自で、いわゆる行政改革等を進めてまいったつもりでございますし、昨年 5 月に就任いたしました大久保市長も事あるごとに行政改革の推進をとということを盛んに部長会議等でもおっしゃっておられます。残念ながら 25 年度の予算執行段階での就任でございましたので、自分のカラーを政策に発揮、反映させるということではできませんでしたが、いよいよ 3 月議会で平成 26 年度の当初予算等を提案する段階になってまいりましたので、26 年度にはそういったこの前からの市長の公約事項も含めまして、色々な形で反映されるものと思っています。しかしながらこの、行政改革は、内部の人間だけでやっておりますと、やはりどうしても限界がございますので、そういった観点で学識経験などをお持ちの、外部の皆様方にこういう形で委員会を組織していただきまして、評価をしていただき、また、その改善点等の意見を頂戴することは、非常に有意義なものであると考えております。

今後は、先ほど来話が出ておりますように、いただいた評価をもとにまた、次の改善につなげていきますように、私どもとしても努力してまいりたいと思いますし、委員の皆様方には引き続きお願いすることになろうかと思っておりますけれども、ぜひともそういった観点で、次年度以降も適切なご意見、ご指摘を頂戴できればと思います。

本当に皆さん、お忙しいところご協力いただきまして、ありがとうございました。今年度最後ということでございますので、お礼を兼ねましてのご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。お疲れさまでした。

○企画振興部次長

それでは、これをもちまして、第 6 回行政評価委員会を終わらせていただきます。1 年間ありがとうございました。

(終了)

会 議 録 の 確 定	
委員長署名	大 橋 松 行

平成 25 年度 第6回彦根市行政評価委員会 出席委員

(50 音順)

氏 名	備 考
赤木 和代 (あかぎ かずよ)	淡海生涯カレッジ彦根校オブザーバー
池上 松夫 (いけがみ まつお)	(元)彦根市行政改革委員会委員
大橋 松行 (おおはし まつゆき)	滋賀県立大学 教授
西川 実佐子 (にしかわ みさこ)	しがNPOセンター
真鍋 晶子 (まなべ あきこ)	滋賀大学 教授
森下 あおい (もりした あおい)	滋賀県立大学 准教授
森 雄二郎 (もり ゆうじろう)	聖泉大学 講師